

「風が強く吹いている」 三浦しをん 著 新潮社

私事で恐縮ですが、学生時代は1日1冊ペースで読むほどの本好きだったのに、ここ数年は、読書の時間が取れず、あまり本を読めていません。そんな訳で、今回は自分が過去に読んだ本の中で、学生の皆さんが手に取りやすく読みやすい、旭川高専の図書館にも置いてあり、かつ、私自身が好きで何度も読み返している作品、三浦しをんさんの「風が強く吹いている」を紹介したいと思います。

主人公の蔵原走（かける）は、天才長距離ランナーですが、高校の部活でとある事件を起こしてしまい、陸上とは無名の大学へ進学、アパートの契約金を使い果たし、野宿しながら大学へ通っていました。ある日、スーパーで万引きした走を追いかけてきた清瀬灰二に、ひょんなことから自分の住んでいる格安アパートを紹介され、そこに住むこととなります。そこには、同じ大学の個性的なメンバーが住んでおり、走が10人目の住人でした。走の歓迎会の最中、灰二は唐突に「これから一年弱、きみたちの協力を願いたい」と発言します。「俺たちみんなで頂点を目指そう。目指すは箱根駅伝だ。」と。灰二も将来を期待された陸上選手でしたが、怪我が原因で第一線では走れなくなり、それでも走り続けたいと願う自分に対し、走りとは無縁の人々のいる場所で「自分はなぜ走るのか」という問いに答えを出すため、機会を待ち続けていたのです。

才能に恵まれ、走ることを愛しているのに走ることに見放されかけていた2人が出会い、陸上とかけ離れた仲間とともに、たった10人で箱根駅伝を目指す、これが本作のおおまかなあらすじです。一見非現実的なストーリーですが、中心となる走と灰二以外のメンバーの心情も丁寧に書かれており、とても読み応えのある作品になっています。

ちなみに、なぜこの本を私自身何度も読み返しているのか。それは、毎年お正月にテレビで箱根駅伝を観る度に、この本を読み返してしまうからです（笑）次の箱根駅伝はまだまだ先ですが、ぜひ、来年のお正月までにこの本を読んで、新たな視点で箱根駅伝を観戦してみてください。

著者の三浦しをんさんは、2006年に「まほろ駅前多田便利軒」で直木賞を受賞、2012年に「舟を編む」で本屋大賞を受賞、他にも「神去なあなあ日常」など多数の作品が映像化されています。どれもストーリーがしっかりしていて読みやすく、登場人物も魅力的でおもしろいものばかりです。もちろん、図書館に置いてありますので、今回紹介した作品以外にもぜひ読んでみてください！